



園だより

きさらぎ
2月(如月)号

令和8年1月30日

千代田区立お茶の水幼稚園

園長 伊藤栄司

<http://www.schoolweb.ne.jp/chiyoda/ochanomizu-k>



共に育つ

3学期が始まって1ヶ月が過ぎました。それぞれのクラスの様子を見ていると落ち着きをもって何事にもチャレンジする姿が見られ、1年間の成長を感じます。現学年での生活もあと2ヶ月となりました。次の学年へのより良いスタートにつなげるためには何が必要か考える日々です。

心の成長

子どもたちの成長を様々な場面で目にすることが多いこの時期ですが、中でも体や身体機能の発達は比較的容易にとらえることができます。「コマが回せるようになった。」「速く走れるようになった。」など日々の生活の中で分かりやすいことなので、賞賛や励ましの言葉もかけやすいのではないかでしょうか。

一方で、思いやりの心をもつことや優しい子に育ってほしいといった、多くの保護者の方の願いである心情的な成長については見逃してしまうことがあります。また、心の成長は、様々なかかわりの中で充実していくことが大切なので実際にいつ、どこで、どうやって身についていくのかが分かりにくいものもあります。

本当に大切なものの

サン=テクジュペリ「星の王子様」のなかで、キツネが王子様に「本当に大切なものは目に見えない」と教える場面があります。物質的なものや外見ではなく、愛や友情、心で感じる絆こそが真に重要であるという物語全体の核心的なメッセージを伝えるシーンです。この台詞は目に見えるものに囚われすぎることなく、本当に大切なものは心の中にあることを思い出させてくれます。

しかし、実際には心は見えないので言葉や行動で心を示す必要があります。日々言葉を習得している幼稚園の子どもたちにとってはとても難しいことです。

言語化する

子どもたちは多くの友達や動物、植物とかかわることで相手を尊重する優しい気持ちをもつことができます。この時、大切なのがその場にいる大人のかかわり方です。保育者は、子どもたちの内なる気持ちを代弁し言語化します。例えば、理由もわからず怒っている子には、「イライラしているのはどうしてかな?」と聞いてあげます。すると、子どもはこのもやもやした、落ちつかない感情は「イライラする」と表現できることを学びます。次からは「イライラする」と事前に話すことで、話し合いで解決できるようになります。目に見える具体物であれば言語化することは簡単ですが、目に見えない心を表現することは大変難しく何回も失敗を繰り返しながら覚えていきます。

共に学ぶ

時には、通訳をするように気持ちを解説しながらお互いが納得するように話を進めることもあります。よく話を聞いてみると、保育者が最初に想像した出来事とは違う展開になってしまうこともあります。その都度、「まだまだ理解が足りないな」「子どもの様子をよく見ているようで見えていない部分があるな」と学ぶのです。

「育てる」や「教える」は主体となる大人に限られる表現のように感じますが、実は子どもによって「育てられ育つ」場面もたくさんあります。育てることを通して、子どもにかかる全ての人が育てられている自覚や意識をもつことが大切であり、実際には見えにくい部分なのかもしれません。

小学校では今月14日に道徳授業地区公開講座を行います。広く地域の方々に道徳の授業を見ていただく機会としています。心を見つめ、言語化しながら様々な考えに触れあう授業を展開しますのでお時間のある方はぜひ、ご覧ください。